



2025年 3月 1日
J L T F 愛媛県支部
支部長 福田幸子

桑名杯レティーステニス大会2025 by DUNLOP

四国大会代表選手選考大会要項

- 主催 日本女子テニス連盟
 - 主管 日本女子テニス連盟愛媛県支部
 - 特別協賛 株式会社ダンロップスポーツマーケティング
 - 協力 花王株式会社
 - 開催日時 **2025年 5月13日(火) 予備日 5月20日(火)**
受付9:00~9:30 開会式9:45
※四国大会 2025年6月4日(水) 於:愛媛県…1, 2, 3位が出場
 - 会場 松山中央公園テニスコート
 - 使用球 桑名杯大会指定球(ダンロップフォート)
 - 種目 女子ダブルス
 - 競技方法 トーナメント方式 6ゲームマッチ コンソレーション 6ゲーム先取
ノーアドバンテージ方式 3位決定戦あり(エントリー数により試合方法の変更あり)
競技規則は(公財)日本テニス協会「テニスルールブック」に準ずる
 - 表彰 優勝者に「桑名杯」授与(持ち回り)
優勝・準優勝にレプリカ(桑名杯)を授与 四国大会代表選手表彰
 - 賞品 優勝・準優勝に花王株式会社よりビオレ、他副賞あり
<https://www.kao.co.jp/bioreuv/athlizm/essence/>
 - 参加資格 日本女子テニス連盟愛媛県支部の会員であること(申込時の入会可)
BCクラス(過去優勝者はSUEKO杯に出ること)
 - 参加料 **1ペア 4,500円** (エントリー代金の振込締切は申込締切日と同日)
エントリー代金振込時、桑名の[クワナ(スペース)名前]を入力
 - 申込締切 **2025年 4月29日(火)締切厳守**
 - 大会役員 大会会長 武正八重子(日本女子テニス連盟会長)
大会委員長 福田幸子(日本女子テニス連盟愛媛県支部支部長)
 - 申込先 渡部 麻弥 mousikomi@jltf-ehime.sakura.ne.jp
(欠場等の連絡もこちらのアドレスにお願いします)
- *メール申込の必要事項***
- 件名 桑名
本文 ①氏名(所属クラブ・従来クラス)
②年齢区分(20代・30代・40代・50代・60代・70代)
③申込責任者氏名(携帯番号)
④エントリー代金の振込日/振込銀行
- 服装 **ゲームウェア着用**
 - その他 ①すべてのプレーヤーを公平に扱います
②本要項は、天候等やむを得ない事情により、変更することがあります
③この大会で得た個人情報、大会以外の目的には使用しません
④筆記用具(スコアカード記入のため)をご持参下さい



知っていますか？桑名杯のこと！



「桑名杯レディーステニス大会」は1981年に、桑名寿枝子JLTF初代会長が自身の米寿を記念して、全支部に優勝カップを寄贈したことをきっかけにスタートしました。2009年には、各支部の代表選手が競い合う「地域桑名杯大会」も開催されるようになり、試合経験の浅い皆さんにも楽しんでいただける大会となっています。



桑名杯のスローガンは「初心者こそチャンスを与え、夢を与え、テニスの楽しさを伝えて行こう！」

桑名初代会長より寄贈された優勝杯

【創設者、桑名元会長はこんな人】

日本女子テニス連盟の初代会長で桑名杯の創設者、桑名寿枝子（旧姓 加生スエ）は明治27年7月12日、福岡県に生まれました。家から学校までの往復8キロの道のりを、雨の日も雪の日も炎天下でも、着物に袴を履き、教科書と筆入れや弁当を入れた風呂敷を巻き付けて下駄履きで通ったそうです。軟式テニスとの出会いは高校生の時。テニス好きの先生が砂地にラインを引いてテニスコートを作ってくれた事がきっかけでした。当時は試合というと、年に1、2回の校内試合があるくらいでしたが、先生の指導でスエさんのテニスの腕はぐんぐんと伸びていきました。

23歳で結婚し、ご主人の赴任地アメリカで18年間を過ごしましたが、帰国3年前から現地のコーチに就いて硬式テニスを始めました。昭和10年の帰国後間もなく、東西トップ選手による対抗試合のメンバーに選ばれると、以後、テニス選手として留まるところを知らない活躍を見せました。



1976年に朝日生命久我山コートで開催された「全日本壮年混合大会」のエキジビションマッチに参加する桑名初代会長（当時82才）。ネットを挟んで右側は岡川理事長（当時12才）

国体は第1回大会から9回大会まで連続出場、芦屋全国グランドベテラン大会は第1回大会から27回連続出場し、その間3回優勝して92歳まで出場するなど、数多くの試合で輝かしい戦績を残しました。

また1958年に東京で開催されたアジアオリンピック大会では女子選手村村長、1960年のローマオリンピックと62年アジアオリンピック（ジャカルタ開催）ではシャペロン（世話係）を務めるなど、女子スポーツ界にも貢献しました。

日本女子テニス連盟の会長を15年間務める一方で、（公財）日本テニス協会理事も兼任し、平成5年4月、満開の桜に見送られて98歳9ヶ月の生涯を閉じました。

2024年 支部から届いた「あんな話、こんな話」

～我が支部の推しペア・推し選手～

🎾 岩手県 (千田亜美・遠藤友美ペア)



【逆・木綿のハンカチーフ 手にしたのはテニスラケットペア】
都会から岩手の大地に住むダーリンのところに嫁に来てから、テニスを始めた二人。桑名杯挑戦は、昨年に続き2回目。今回は8チーム中6位。頑張りました。「スキーオフシーズンのエクササイズでテニスを始めた千田（神奈川県出身）と、テニスを習い始めた息子の影響で自身もどハマリしてしまった遠藤（宮城県出身）が、岩手で巡り会いペアを組んでいます。支部開催のバザーで手に入れた揃いのウェアをキメ込んで、桑名杯に挑みました。」

🎾 宮城県 (小泉郁子・富田直美ペア)



『桑名杯は何度目の挑戦か覚えていません、子供が2歳の時からのママ友です。』とおっしゃるお二人は、明るくいつも笑顔で周りの人たちも幸せな気持ちにしてくれます。

🎾 京都府 (山上・西村ペア) (野島・浅田ペア)



10年で8度同じペアで参加されていた2ペアを選びさせていただきました。
「来年こそはもうちょっと、来年こそは・・・と出場し続けて気づけば10年。それでも折れない！！来年こそは頑張ります。」

🎾 群馬県 (貫井さん)

少し前から試合に出ていただく機会が増え、今回終始楽しそうにプレイしていた姿が印象的でした！



🎾 鳥取県 (福浜美佐緒・田中沙也香ペア)

年齢は親子ほど離れていますが、とても仲良しなお二人。昨年に引き続き2度目の桑名杯出場で、今年は3位トーナメント準優勝でした。来年もまた一緒に出場して欲しい！



広島県では「推しイベント」開催も



なんと！30年前の支部長杯で優勝した写真を持参しイベントの列の先頭に並んだのは「小川・花房ペア！」

選手の皆さんは、試合の合間に撮影したり、掲示板を見に来るなどして楽しんでくれていたように思います。

大会当日は、撮影希望の選手を役員がインスタントカメラで撮影し、用意した掲示板にコメントを添えて自由に貼ってもらいました。その写真は帰るとき各自持って帰っていただきました。

